

令和2年度第1回岐阜市地域福祉推進委員会 書面会議にていただいたご意見について

項目	該当箇所(資料)	いただいたご意見	今後の対応等
1	P7	せつかく見やすいグラフなので、内訳の多い順だともっとわかりやすいと思います(P6のように本人から近い順序など理由があればよいのですが。)	今回の資料では、対象や内容など関連のある項目で配置させていただきました。いただいたご意見は、今後、資料を作成する際の参考にさせていただきます。
2	P11	⑤不正防止効果の部分をもう少し充実させてほしいです。加齢や持病など日常生活の困難が進めば進む程、将来が案じられます。更に、昨今のニュースで施設での虐待や詐欺など不安は増すばかりです。そんな中、少しでも不安解消の糸口や制度利用のきっかけになればと思います。	ご指摘いただきました通り、成年後見制度活用にあたっては、この不正防止効果を増大させることによって、安心して本制度を活用していただくことにつながると考えておりますことから、少しでも将来の不安解消や制度利用のきっかけになるよう、不正防止に取り組んでまいります。
3	P5、P14	○相談体制構築への期待 今般、コロナ関連も含めて、高齢者福祉の課題が注目されています。複合・複雑化した課題に対して、福祉まるごと支援員への期待は大きいです。まず、どこに相談すればよいのかというSOSの出し方について周知するよう努めていただきたいです。高齢本人が相談するのが難しい場合も想定して、家族への広報も重視していただきたいです。学校教育においても「うちのおじいちゃんが・・・」とか「近所のおばあちゃんが・・・」という自分事とした学びを工夫して、その地域のどこに相談するところがあり、誰に相談するのかという知識を持つようにさせたいです。	ご指摘いただきました通り、困りごとを少しでも早くご相談いただけるよう、各種相談機関を含めた相談体制のPRについて、より効果的に取り組んでまいりたいと考えております。

項目	該当箇所(資料)	いただいたご意見	今後の対応等
4	全体	<p>ODXへの期待 家族が福祉関係の相談をする場合、平日休暇をとって窓口へ出向くのは難しいと思います。家族が中心となっている人はある程度デジタル対応も可能だと思うので、相談のしぼり込みなど、時間外や休日でもデジタル対応できる仕組みを計画的に進めていただきたいと思います。スマホの普及を考えると、希望者に福祉情報をメルマガのように配信するとか、オンライン相談を実現させるとか、「福祉DX」を進めると、若い世代も関心が高まるのではないかと考えます。</p>	<p>コロナ禍であることを考えましても、ご指摘いただきました通り、DXへの取り組みは必要不可欠であると考えております。一方、福祉の現場におきましては、対面での相談の重要性も高いことなどから、デジタル対応に完全に切り替えることは困難な状況にあります。 ご指摘いただきました点を参考にしながら、地域福祉の中で、どのような形が最善なのか検討してまいりたいと考えております。</p>
5	P5	<p>今年度はコロナ禍の中でしたが順調に推進されていると思います。来年度についても重点事業が予算案化され、とても期待できます。計画に沿って一層の推進を願います。</p>	<p>ご指摘いただきました通り、来年度、福祉まるごと支援員や成年後見センターの設置などの新規事業に取り組みながら、地域福祉を推進してまいりたいと考えております。</p>
6	P4	<p>地域アセスメントシート、社会資源マップの活用方法はどうか予定ですか。</p>	<p>アセスメントシートを作ることが目的ではなく、地域ごとの特徴や社会資源の可視化、地域課題の明確化をすることで、解決方法の検討をし、地域活動につなげていくプロセスが重要であることから、その情報を求めている方や関係機関に情報提供し、将来的には、インターネットでも閲覧できるようにしてまいりたいと考えております。</p>
7	P14~18	<p>「担い手の育成と発掘」で育成された人材をどのように活用される予定ですか。</p>	<p>出会いと学びの講座において、参加者がすぐ活動できるよう、あらかじめ活動内容を想定して開催するなど、地域の方と担当の地域福祉コーディネーターと一緒に考え、担い手育成事業を展開してまいりたいと考えております。</p>

項目	該当箇所(資料)	いただいたご意見	今後の対応等
8	全体	コロナ禍で地域でも十分に動けていないのではないのでしょうか。	今年度、サロンの開催など、地域福祉活動がこれまでどおり実施できない状況がありました。一方、今までのように集まることが難しい状況で、屋内ではなく屋外でのウォーキング活動や、電話や手作りの贈り物を持って訪問する見守り活動など、コロナ禍での地域福祉活動が実施されていることもお聞きしております。
9	P6	10～12月で相談が27件と少ないように思います。	来年度から福祉まるごと支援員や福祉まるごと相談窓口の本格運用が始まるため、地域住民はもちろん、関係機関にも周知してまいります。
10	全体	成果が出たところで完成ではなく、地域ごとの状況に合わせた生かし方を委員共有として考え、行政視点のみではなく、その地域目線を大切に出来る働きかけをしていけると良いのではないかと思います。作り出すことから動かす力となる社会資源を生かせる働きかけを望みます。	ご指摘いただきました通り、地域の方の視点を大切にしながら、地域福祉の推進に取り組んでまいりたいと考えております。
11	P4	令和2年度は、コロナウイルスによる感染状況を見ながら活動を模索する日々が続きました。いろいろな自治会の活動(地域の行事)が中止となり、私が所属する団体としても何が出来るか悩みました。今年度の成果についても、そんな状況の中、アセスメントシートで地区の状況を数値でまとめた資料などはとてもわかりやすく良いことだと思います。	地域の皆さまの活動の一助となることを目的として、その地域の状況を分かりやすくするため、数値でまとめた基礎データに加え、その地域の団体や組織、活動をまとめた社会資源データも作成してまいります。
12	P15	担い手の育成と発掘という観点から、コロナ禍においても、「出会いと学びの講座」を開催されたりして良いことだと思います。突然の臨時休校の中、学校という居場所が子どもたちにとってどれほど重要であったか、そして地域の行事への参加がより良い子育て(健全育成)にいかに関わるか、あらためて認識させられました。令和3年度、どの地域においても、みなぎをつなぎ、安心して暮らせる、そしてどんな人にも福祉の恩恵が受けられる理解と支援のある町づくりが、そして、それを支える社会福祉の組織でありつづけたいと思います。	担い手の育成に関して、どのような方法で実施していくか、担当の地域福祉コーディネーターが地域の皆さまと一緒に考え、展開してまいります。さらに、地域の担い手は子どもから高齢者だけではなく、地域内の企業や社会福祉法人も担い手になりえると考えていることから、様々な担い手づくりとして、出会いと学びの講座に加え、福祉出前講座を実施し、福祉について関心を持っていただく機会を創出してまいります。

項目	該当箇所(資料)	いただいたご意見	今後の対応等
13	P6、P7	相談窓口利用者が本人からが最も多く、ヘルプデスクの活用がされている事が事例を通して理解できました。 しかし、P7相談内容に対して、身近な相談機関である地域包括支援センターや友人・知人からの窓口相談が少なく、地域住民・医療機関・事業所は0件。困窮者は相談の行き場がわからない現状や地域から声のあげづらさがあるのではないかと思います。コロナ禍でもあらゆる手段を活用し、関係機関が具体的に情報を共有・協働していく体制強化する必要があると感じました。	来年度から福祉まるごと支援員や福祉まるごと相談窓口の本格運用が始まるため、地域住民はもちろん、関係機関にも周知してまいります。
14	P5、P9	コロナ禍にあって福祉活動は地域においてサロンを含め大きく後退しています。コロナが後退するなかで、どれだけ早く元に戻せるかが課題と思います。福祉まるごと支援員設置や、岐阜市成年後見センターの設置は必要なことですが、地域の理解を得ながら一歩一歩進めてください。	ご指摘いただきました通り、市の取り組みについて、地域のご理解をいただきながら推進してまいりたいと考えております。
15	全体	人が生き最後を迎える、その当然の期間に起こりうるとても大切な重い課題・解決への地域福祉に取り組んでいただけることに頭が下がります。私の校区でも様々な問題に取り組んでおられ、そのことに少しの協力もしてまいりました。今後、元気な限り校区でも協力を惜しみません。皆が安心して住みなれた地区で安心して暮らせること、“地域の方は地域の者で見守る”これが一番大切なことと思います。“岐阜市地域福祉推進計画”の実現へ向け取り組んでいただけることに感謝です。	引き続き、皆さまにご協力いただきながら、地域福祉の推進に取り組んでまいりたいと考えております。
16	全体	地域福祉という非常に捕捉すべき範囲が広いテーマに対し、総合的な相談体制の構築が望まれていることに対応すべく動きが出ていることは喜ばしいことです。細分化されていたものを把握して相談の入り口に立つ福祉まるごと支援員の要件を定めることと、それに合致する人材を確保、育成していくことが重要であると感じています。今回の資料の中ではその点について言及が十分されているようには見受けられません。市社協に設置となっていますので社協がその要件をどのように設定しているのか、R3年度開始の段階で整備されていることが必須と感じています。	ご指摘いただきました通り、福祉まるごと支援員の果たすべき役割は大変重要であり、実際に様々な事例に関わることを通じて経験を積み重ねていくことが大切であると認識しております。令和3年4月の開始以降も、運用上の課題に適宜対応しながら、岐阜市と岐阜市社会福祉協議会がともに人材の育成に取り組んでまいります。
17	P14	地域福祉読本を作成するのは良いと思います。これをどのように使っていくのか教えていただきたい。また、大まかでよいので誰もターゲットとしているのかわかると良いです。例えば、学校向けなら児童、親、教職員なども含まれるのでしょうか。	現行の福祉読本「ぐう・ちよき・ぱあ」をもとに、地域福祉に関する活動や(仮称)子ども福祉委員の取り組みなど、地域と児童がタイアップして取り組んだ福祉活動の事例を盛り込んだものを作成し、これを教材として、講座等で活用することを想定しております。また、ご指摘いただいたとおり、児童、親、教職員などを対象に、取り組んでまいりたいと考えております。

項目	該当箇所(資料)	いただいたご意見	今後の対応等
18	P4	<p>社会資源マップをみましたが、大まかに表示されているのでわかりにくく、運営が始まった際にはその団体がどのようなことをやられているのか目でわかるようになるのでしょうか。この紙の媒体では場所がわかっても、その団体がどのようなことをやっているのかわかりにくいと思います。(NPO団体とは言ってもひきこもりや一人親支援をしている、等)</p>	<p>ご指摘いただいた通り、マップに掲載されている団体が、どのような活動を、いつ実施しているのか、見て分かるようなものを想定しております。また、将来的にはインターネットでも閲覧できるように考えております。</p>
19	P4	<p>アセスメントシートは地域の数字を見るのに良いと思います。ただ、見える数字が羅列されているように見えるので、続けていくならわかりやすくしていただけると良いかと思えます。</p>	<p>アセスメントシートは、数値でまとめた基礎データだけではなく、その地域の団体や組織、活動をまとめた社会資源データも作成しております。いただいたご意見を参考に、分かりやすい資料になるよう、引き続き、検討してまいります。</p>
20	P5	<p>令和2年度はコロナの影響であらゆる行事や会議が中止となりました。その中で、市社協ごとのアセスメントシートや社会資源マップづくりが継続して行われていること、また、困難事例対応として、福祉まるごと支援員を配置し、ヘルプデスクを活用することで総合的な支援が可能になったと思えます。今後、複雑化した事例が増えていくことが見込まれるため、多岐にわたり連携がとれる体制が構築されることを期待しています。</p>	<p>ご指摘いただきました通り、複雑化する市民の皆さまの困りごとに対応してまいりたいと考えております。</p>